

令和6年度文京区障害者地域自立支援協議会

第1回子ども支援専門部会 要点記録

日時 令和6年6月26日（水）午後2時1分から午後3時53分まで

場所 文京シビックセンター3階 障害者会館会議室B

<会議次第>

1 開会

2 議題

- (1) 令和6年度障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会について
- (2) 教育と福祉の連携を目指した学習会について
- (3) 障害者・児計画の評価について

3 その他

<出席者>

向井 崇 部会長、高山 直樹 部会員、荻野 美佐子 部会員、内海 裕美 部会員、
勝間田 万喜 部会員、高山 陽介 部会員、内田 千皓 部会員、川崎 洋子 部会員、
加藤 たか子 部会員、高橋 拓也 部会員、井上 アヤ乃 部会員、小野寺 素子 部会員

<欠席者>

鵜沼 苗子 部会員、町田 寛子 部会員

<傍聴者>

2名

1 開会

本日の予定の説明等

2 議題

(1) 令和6年度障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会について

資料第1-1号から資料第1-4号について事務局及び向井部会長から説明

(2) 教育と福祉の連携を目指した学習会について

資料第2号について、向井部会長から説明、以下質疑応答・意見交換

- ・どこの自立支援協議会でも、切れ目のない支援と言っている。大きな意味では、構造的な縦割りの問題。切れ目のない支援がキーワードになっているが、切れ目とは一体どういうことかを明らかにすべき。立場によって見え方が全く変わる、子どものほうからすると先が見えない、壁みたいになっていて、大人から見ると、切れ目になる。意思決定が阻害されて、その人らしく生きられないことは、今本当に構造的な問題だけど、多分それを今文京区の本当に熱意ある方たちが何とかつないでやっている。
- ・連携、療育を考えるときに、場の違いを超えてどう共有していくかと、時間軸の中の時間的な変化の中で、両方を子どもが育っている場と空間的なところと、両方大事だが、両方に焦点を当てるのは非常に難しい。時間軸の中での支援を積極的に考えるなら、もう少し伝える形にできると、ロジックとしても、参加している方も、どこを意識して考えなければいけないかがクリアになって、方向性が見えてくる。
- ・事例が切れ目に焦点が合うような、例えば、こういう切れ目がなかったらよかったのというような切れ目を捜す。本人に切れ目はないわけで、アプローチに切れ目が出ちゃっている。今何に困っているかというところだけでも随分解決する問題はあると思うので、過去が分からなくても、今できることはできるんだけど、もっとこれが分かったら、よりよかったということが分かるような事例検討にしないといけない。
- ・学校は切れ目と考えている部分もあるが、自分たちから手が離れたときに、目の前の業務が精いっぱいでもどんなリソースがあるのか知識と理解がない教員もいるため、切れないように考える視点がないこともあるので、考える視点が持てるとよい。
- ・支援の中で、こういう子はどうかこれから過ごすんですかと言われることがかなり多い。その子その子によって、行ける道、使えるサービスも違ってくるが、教育側と連携していくことで、福祉のサービスがあるというのは伝えやすい。相談をする場を設けるところが一番難し

い。学校の先生とかと、顔の見える関係が広がってくると、本当に連携という意味ではとてもよい機会になる。

- ・親御さんにもマイ・ファイル「ふみの輪」の重要性を伝えたり、ご自分でそういうものがあったほうが良いと伝えているが、なかなか浸透し切れていない。一緒に考えるが、保護者の方も、どういうところにこの子の幸せはあるのか、どういう人生が歩めるかをぜひ考えていただくきっかけを持っていただくことで、切れ目やブランクが少しでも小さく、高さが低くなるようになっていけばいい。
- ・豊島区の会議に出て、特別支援学校の学校生活支援ファイルの福祉への活用が実は難しいという話もあった。学校生活支援ファイルの中身を見たことがない放課後デイ事業者がたくさんいたことが分かって、これが現状だと思った。ツールはあるけど、うまく活かせていないとか、いろんな課題もあるので、課題点がこれをきっかけに見えるといい。
- ・保健サービスセンターでは、3歳までのお子さんの乳幼児健診を行っており、スクリーニングの場所になっている。月齢に応じて必要な課題を見つけて、主に医療機関、療育の場所、様々な専門機関とシェアし、タイムミリットの中つないでいる危機感を持っている。
- ・子ども家庭支援センターもつながりが必要なご家庭と分かっている場合は、そのご家庭の個別ケース会議等を開催した際につなぎ先を考えて事業者、例えば相談支援事業所にお越しいただくなど連携は密に行っている。

児童福祉法の関係で、お子さんの誕生日でサービスが切れたり、金銭面でも親御さんが困ったり、いろんなご家庭があるので、早めに次のつながり先と連携しているつもりだけれども、縦割りの部分がある。

- ・特別支援教育コーディネーターだけが集まる研修会に、例えば今回のような形と合わせる方法もなくはない。主任の先生方が集まる会もある。通常の学級の先生方と話もあったけれども、急にいろんな先生方に広げていくのは、事業的に難しい部分がある。
- ・グループワークで、自分たちじゃないテリトリーの仕事の部分を、どこまで理解しているかの共通言語をつくるとしたら、話題提供の部分で、感じている切れ目が何なのかということ、場の紹介も含めて行い、話題提供をしてくださった方にフォーカスして、そこを中心にディスカッションする。
- ・それぞれの特徴的な部分、どういうステージにその子が立つことによって切れ目が発生してしまうかという、立場が変わることで発生するもの、様々なものが切れ目かと思うので、どこに焦点を当てるかで変えてもいい。

- ・持っている困難、困り事によって枠組みをつくるのもあり。どんなニーズがあるか分かれば、先生たちが当事者だという感じがする。
- ・話題提供に関して、深く知りたいということもある。深掘りできれば、それぞれの中で何か新たな視点が見えてくる。話題提供者がファシリテーターも兼ねるのは負担が大きいので、例えばファシリテーターというか全体を方向づけするような方がもう1人加わって進められるといい。ただ、それだと人数が多くなり過ぎるかもしれない。
- ・議論を集約すると、切れ目を今回明らかにしていくことを目標とする。その中で、それぞれの話題提供者から、機関を紹介していただくのと、プラス経験として、脚色しながら現状ある切れ目を話題提供として話していただく。それを基にグループワークをしていくので、話題提供者にファシリテーターとして入っていただきながら、分科会的に、例えば教育センターの先生のグループ、成人のグループ、教育のグループという形にするか、ごちゃ混ぜにして、一つの事例として成人期から相談につながらなくて、今困っているケースを出していただいて、そのケースに対して、それぞれの機関がどうできたかを出し合うやり方がある。たたき台なので、ご意見をいただいて、形が見えてきたと思う。貴重なご意見をありがとうございました。

(3) 障害者・児計画の事績評価について

資料第3－1号について事務局より説明

3 その他

- ・ 令和6年度子ども支援相談部会のスケジュールについて向井部会長から説明